

給食だより

令和6年度
1月号

(毎月19日は食育の日)
 ●家族で一緒に読みましょう

氷見市立湖南小学校

明けましておめでとうございます。
 今年度も、残すところあと3か月となりました。引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思ひます。
 本年もよろしくお願ひいたします。

今年は巳(へび)年！

へびは、食へるときに獲物をれのみしますが、皆さんは、よくかむことを意識して味わって食へましょう。

1月24日～30日は、全国学校給食週間です！

1月24日から30日までは全国学校給食週間です。学校給食の意義や役割についての理解と関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に行われています。

昭和20(1945)年、戦争が終わったばかりの日本では食料が不足し、栄養不足の子供たちがたくさんいました。給食も戦争で中断されたままでした。

この日本の様子を見て、外国から食べ物の援助がたくさん送られてきました。こうして昭和21(1946)年12月24日、学校給食が再び始まりました。

その頃の小学6年生の体は、今の小学4年生くらいの大ささだったといひます。

12月24日は学校が冬休みなので、1ヶ月遅れた1月24日から「全国学校給食週間」が行われます。給食に感謝し、その意義と役割を再確認する1週間です。

阪神・淡路大震災から30年
 災害時の『食』を備えましょう

1995(平成7)年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と決めました。
 阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震のように、30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、一人一人が自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018(平成30)年8月31日に同協議会は解散し、この取組は、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

災害時の食の備え

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる
非常食

 アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える
日常食品

 お米、乾麺、乾物、日持ちのする野菜・果物、調味料など

外出時の
持ち歩き用品

 飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくとう安心です。

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができまひ。家族であらかじめ、使い方をかくにん確認しておきましょう。

災害発生直後の食事

避難所へ避難することも考へ、1日分の飲料水と非常食を、非常用持ち出し袋等に入れておきましょう。家にとどまる場合は、冷蔵庫・冷凍庫の中にある腐りやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせず済みます。

家庭で備蓄リストの作成を！

家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。